

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5028815号
(P5028815)

(45) 発行日 平成24年9月19日(2012.9.19)

(24) 登録日 平成24年7月6日(2012.7.6)

(51) Int.Cl. F I
A 6 1 F 13/02 (2006.01) A 6 1 F 13/02 3 8 0
 A 6 1 F 13/02 3 5 5

請求項の数 2 (全 7 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2006-40795 (P2006-40795) (22) 出願日 平成18年2月17日(2006.2.17) (65) 公開番号 特開2007-215827 (P2007-215827A) (43) 公開日 平成19年8月30日(2007.8.30) 審査請求日 平成20年12月5日(2008.12.5)</p>	<p>(73) 特許権者 000002897 大日本印刷株式会社 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 (74) 代理人 100062144 弁理士 青山 稔 (74) 代理人 100079245 弁理士 伊藤 晃 (72) 発明者 宮崎 寿夫 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 大日本印刷株式会社内 審査官 ニッ谷 裕子</p>
---	---

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 離型シートを備えた粘着シート

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

粘着面(10a)を1枚のフィルム状の離型シート(20)のみで覆ってなる粘着シートであって、

離型シート(20)は、粘着面に接する内表面とは反対側の外表面に、引き剥がし用のタブ(30)を取り付けて構成されており、

当該引き剥がし用のタブ(30)は、その一部分のみが離型シート外表面に固定されており、

上記引き剥がし用のタブ(30)は、シート材料を2つに折り畳んで構成されており、第1折畳片(31)が離型シート(20)の外表面に固定されており、第2折畳片(32)が離型シート(20)の外形輪郭内に納まる位置に折り返されており、

当該粘着シートは、直角に交差する第1辺(11)および第2辺(12)を含む矩形形状をなすとともに、上記離型シート(20)も、粘着シートの第1辺(11)および第2辺(12)に重なる第1辺(21)および第2辺(22)を含む矩形形状をなしており、

折り畳まれた上記引き剥がし用のタブ(30)は、その折畳線(30a)を離型シートの第1辺(21)よりも内側に位置させた状態で、離型シートの第2辺(22)に沿って延在していることを特徴とする、粘着シート。

【請求項2】

上記引き剥がし用のタブ(30)は、第1折畳片(31)よりも第2折畳片(32)の方が長くなるように折り畳まれていて、

10

20

第2折畳片(32)は、第1折畳片(31)を超えて延在する部分(32a)が着色されていることを特徴とする、請求項1記載の粘着シート。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、粘着面に離型シートを備えてなる、救急絆創膏や外用貼付剤等の粘着シートに関する。

【背景技術】

【0002】

上記粘着シートは、使用時に離型シートを引き剥がして粘着面を露出させ、これを患部に貼り付ける。その際、粘着面が単に1枚の離型シートで覆われていると捲り難いので、粘着面の中央でオーバーラップする2枚の離型シートを設けて、離型シートを捲り易く構成したものが知られている(特許文献1)。

10

【0003】

ところで、離型シートは粘着面から引き剥がされた後で廃棄されるものであるが、2枚の離型シートを備える粘着シートの場合、引き剥がした後では、別々に分離した2枚の離型シートが存在することとなるので、これを廃棄するのが面倒であったり、手間取ったりするといった問題がある。

【0004】

【特許文献1】特開2002-65726号公報

20

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

上記従来事情に鑑み、本発明の目的は、廃棄される離型シートが1枚のみであって、しかも、離型シートの剥離作業を行い易い粘着シートを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、上記要望に応えるべく創案されたものであって、以下の特徴を備えた粘着シートを提供するものである。

すなわち、本発明の粘着シートは、粘着面を1枚の離型シートで覆ってなる。そして、離型シートは、粘着面に接する内表面とは反対側の外表面に、引き剥がし用のタブを取り付けて構成されている。当該引き剥がし用のタブは、その一部分のみが離型シート外表面に固定されている(他の部分は固定されていない)。

30

【0007】

本発明の粘着シートにおいて、上記引剥し用タブは、シート材料を2つに折り畳んで構成されていてもよい。その場合には、第1折畳片が離型シートの外表面に固定され、第2折畳片が離型シートの外形輪郭内に納まる位置に折り返されて構成される。

【0008】

また、上記引剥し用タブは、その端部が離型シートの外形輪郭を超えて突出する、折り畳まれていない平坦な1枚のシート材から構成してもよい。この場合には、少なくとも当該突出部分は、離型シート外表面に固定されておらず、他の部分が離型シート外表面に固定される。

40

【発明の効果】

【0009】

本発明の粘着シートにおいては、粘着面を覆う離型シートが1枚のみであるため、当該離型シートを捲り取った後における廃棄作業が簡単となる。しかも、離型シートの外表面には、捲り取るのを容易にするために、引剥し用タブが固定されている。

すなわち、引剥し用タブは、その一部分が離型シート外表面に固定されていて、他の部分は離型シート外表面には固定されていない(つまり、離型シートの外表面に載っているに過ぎない、あるいは離型シートの外形輪郭を超えて突出している)。したがって、この

50

固定されていない部分を摘んで、簡単に離型シートを捲り取ることができる。

【0010】

なお、引剥し用タブを2つに折り畳んで構成する場合には、一方の折畳片を他方の折畳片よりも長く構成し、その部分に着色を施すことが好ましい。また、引剥し用タブを折り畳まない平坦な1枚のシート材から構成する場合には、離型シートの外形輪郭を超えて突出する当該シート材の突出部を着色することが好ましい。

着色した部分が目印となって、使用者は、より簡単にこの部分を摘んで、離型シートを捲り取ることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

本発明の実施形態を、添付の図面を参照して、以下に詳細に説明する。

【0012】

第1実施形態(図1~図3)

図1は、本発明の第1実施形態に係る粘着シート10を真上から見た平面図である。図2は、引剥し用タブ30を摘んで、離型シート20を捲り取っている状態を示す斜視図である。

【0013】

粘着シート10は、その片面が薬剤等を含有する粘着面10aとされている。本発明においては、この粘着面10aを1枚のフィルム状の離型シート20で覆っている。離型シート20が1枚のみであるから、これを捲り取った後での廃棄が簡単かつ便利なものとなる。

【0014】

離型シート20は、粘着面10aに接する内表面とは反対側の外表面に、引き剥がし用のタブ30を備えている。この引剥し用タブ30を摘んで捲り取ることで、離型シート20を簡単に引き剥がすことができる。

【0015】

なお、粘着シートおよび薬剤等は一般的に知られたものであり、離型シート20についても、それ自体は、ポリプロピレン等の材料から製造される一般的なものである。

【0016】

引剥し用タブの構成

本発明においては、引剥し用タブは、その一部分のみが離型シート外表面に固定されていて、他の部分が離型シートに固定されていなければ足りる。そのように構成されている限り、固定されていないタブ部分を摘んで、離型シートを簡単に捲り取ることができる。

そのような条件が満足される限り、引剥し用タブの具体的な構成が特定のものに限定されるものではない。第1実施形態では、そのような引剥し用タブの一例として、以下に説明するような構成を採用している。

【0017】

図3は、粘着シート10の側面図であって、引剥し用タブ30が固定された離型シート20上の箇所を部分的に拡大して示している。図2および図3から分かるように、引剥し用タブ30は、細長い矩形の一枚のシート材を、折畳線30aにおいて2つに折り畳んで構成されている。

図3において下方側に位置する第1折畳片31において、引剥し用タブ30は、適当な接着剤等により、離型シート20の外表面に固定されている。図3において上方側に位置する第2折畳片32は、第1折畳片31よりも長く構成されていて、その一部分32aが第1折畳片31を超えて、図3中右側へと突出している。この突出した部分32aを摘み上げることで、離型シート20を粘着シート10から捲り取ることができる。

【0018】

なお、この突出部32aには、例えば青色等の適当な着色を施すことが好ましい。着色した場合には、この部分が目印となって、使用者は、さらに簡単にその部分を摘み上げることができる。

10

20

30

40

50

【0019】

粘着シートの形状

図示した粘着シート10は、直交する2辺11、12を含む矩形形状としているが、本発明においては、粘着シート10の形状は、矩形以外にも、円形、楕円形、多角形、その他任意のものを採用できる。ただ、矩形形状の粘着シート10は、製造ラインにおいて大量生産するのに適した形状である。

また図示の例では、離型シート20は、粘着シート10とほぼ同一形状をなしており、直交する2辺21、22を含む矩形形状とされている。したがって、図1においては、粘着シート10の第1辺11、第2辺12は、それぞれ、離型シート20の第1辺21、第2辺22と重なって現れる。

10

【0020】

引剥し用タブの位置

図示したような矩形形状の粘着シート10および離型シート20を採用した場合には、引剥し用タブ30の折畳線30aは、離型シートの第1辺21よりも内側にズラして配置することが好ましい(図1参照)。もし仮に、折畳線30aを第1辺21に沿って配置すると、製造ライン中での第1辺21に沿う切断工程において、引剥し用タブ30も一緒に切断され得る。そこで、これを防止するために、図示したように、引剥し用タブ30の折畳線30aを、離型シート20の第1辺21よりも内側にズラして配置することが好ましい。

【0021】

一方、引剥し用タブ30は、その側辺については、離型シート20の第2辺22に沿って延在していることが好ましい。

20

このような配置にすると、上記切断工程で切断される以前の状態において、図1中粘着シート10よりも上方側に隣接する他の粘着シート(図示せず)にまで渡って延在する1つの引剥し用タブ30を離型シート20に固定しておき、その後、第2辺22に沿って切断することで、当該不図示の粘着シートに対しても引剥し用タブ30を同時に形成できるというメリットがある。

【0022】

なお、図1から分かるように、引剥し用タブ30は、その全体が離型シート20の外形輪郭内に納まっている(その外方へ飛び出していない)。すなわち、第1折畳片31の上に折り畳まれた第2折畳片32は、離型シート20の外形輪郭内に納まる位置に折り返されている。

30

このような構成を採用すると、複数の粘着シート10を積み重ねた場合に、その積層体の側方にヒラヒラと突出するタブ部分が存在することがない。つまり、複数の粘着シートを積み重ねて袋体にパッケージするのに好都合となる。

【0023】

第2実施形態(図4)

図4は、本発明の第2実施形態に係る粘着シートを示す斜視図である。第2実施形態においても、第1実施形態と同様に、粘着シート10が1枚の離型シート20で覆われており、この離型シート20に引剥し用タブが固定されている。

40

第2実施形態においては、引剥し用タブ60の具体的構成のみが第1実施形態と異なるので、その点についてのみ説明する。

【0024】

引剥し用タブ60は、ストリップ状の平坦な1枚のシート材料から構成されていて、第1実施形態の場合のように折り畳まれてはいない。この引剥し用タブ60は、その一端が離型シート20の外形輪郭を超えて外方に突出している。したがって、この突出部60aを摘んで、離型シート20を簡単に捲り取ることができる。

【0025】

なお、この突出部60aには、例えば青色等の適当な着色を施すことが好ましい。着色した場合には、この部分が目印となって、使用者は、さらに簡単にその部分を摘み上げる

50

ことができる。

【 0 0 2 6 】

なお、第 2 実施形態の粘着シートにおいては、引剥し用タブ 6 0 の一部が離型シート 2 0 の外形輪郭を超えて外部に突出しているため、この突出量があまりに大きいとパッケージングに不利となることも考えられる。しかし、突出量を適度に抑えれば、それ程問題とはならないし、折り畳まない平坦なシート状の引剥し用タブ 6 0 は、その構成が単純で製造コストを抑えることができるというメリットがある。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 7 】

【 図 1 】 本発明の第 1 実施形態に係る粘着シートを真上から示す平面図。

10

【 図 2 】 図 1 の粘着シートの使用方法を説明する斜視図。

【 図 3 】 図 1 の粘着シートの部分拡大側面図。

【 図 4 】 本発明の第 2 実施形態に係る粘着シートを説明する斜視図。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 8 】

1 0 粘着シート

1 0 a 粘着面

1 1 粘着シートの第 1 辺

1 2 粘着シートの第 2 辺

2 0 離型シート

20

2 1 離型シートの第 1 辺

2 2 離型シートの第 2 辺

3 0 引剥し用タブ

3 0 a 折畳線

3 1 第 1 折畳片

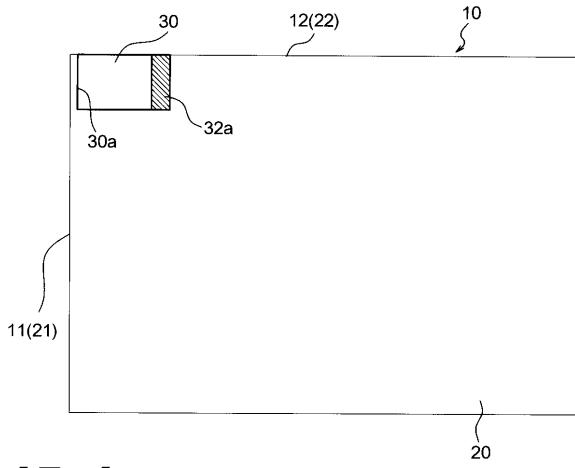
3 2 第 2 折畳片

3 2 a 着色部 (突出部)

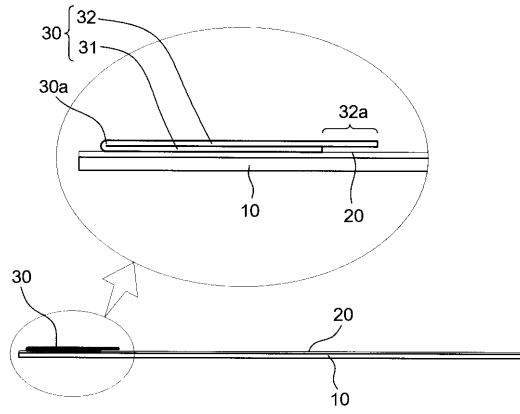
6 0 引剥し用タブ

6 0 a 着色部 (突出部)

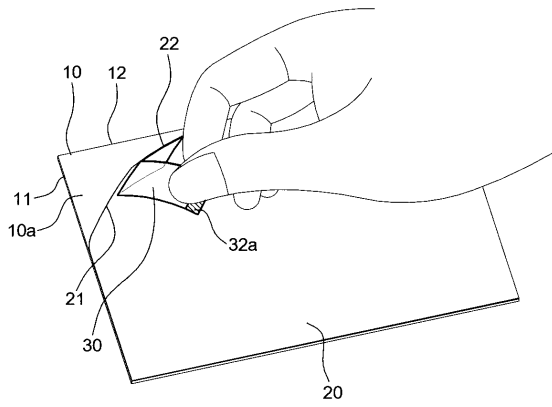
【図1】



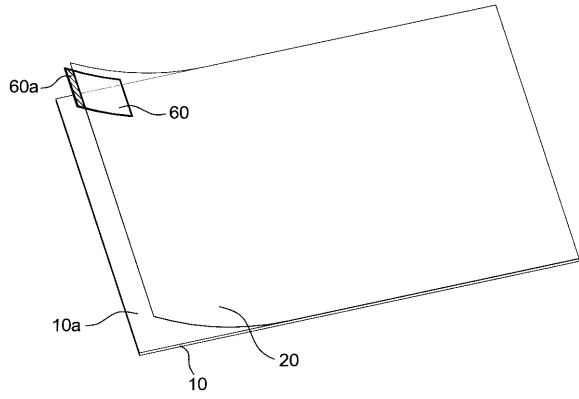
【図3】



【図2】



【図4】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開平06-041739(JP,U)
実開平01-065025(JP,U)
特表平10-511881(JP,A)
実開昭56-057235(JP,U)
特開2005-192806(JP,A)
特表平07-500751(JP,A)
特開平09-238975(JP,A)
特開昭61-022856(JP,A)
特開2002-065726(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A61F 13/00 - 13/02
A61K 9/70